

せいけん  
詩集

第三篇

作：近藤せいけん

## 「旅立ち」

朝日と共に 家人に見送られ

住み慣れた 家を

今離れます

母は私の手を取り 涙ぐみ

何回も何回も

幸せになつてね

幸せになるんだよと

繰り返し 繰り返し

そして手を

ギュツと握っていました

父は玄関の隅に 黙つて

立っていました

父の目に朝日があたり キラッと

光るものを見ました

迎えの車が 着きました

後部座席に座りマドをあけ

父母を見ました

母は目頭をハンカチで押さえ

右手で私の手を いつまでも

いつまでも 握っていました

クラクションが小さく鳴り

車が動き始めました

白髪が増えた父

手を軽く挙げ 優しい顔で

頭を下げました

私は 私

今朝 旅立ちます

私は 私

あなた方の子で

幸せでした

「相模の国 ぶるやま」

相模の国 幾すじの大河流れ

清らかな流れ 神代より続き

里人 川と共に生き

川に生かされ 満たされる

川 魚影濃く

里人の生計を支える

相模の国 霊峰大山 聳え立ち

どこまでも続く 青い山並み

豊かな木々 豊かな生き物達

自然よ 里人を守れ

里人よ 自然と共に生き

次の世代まで 守り育てよ

豊かなれ 相模の国

清らかなれ 相模の国

里人よ 自然と共に生きよ



「私の好きな詩」

あなたの好きな詩は何ですか？  
誰が思い出されますか？

「はい」

「そうですね」

私はヴェルレーヌの秋の歌が好き

「秋の日のワイオロンのため息は

余が胸をけだるくも  
悩ましぬ」

私は島崎 藤村の小諸なる

古城のほとりが好き

「小諸なる古城のほとり

雲白く遊子悲しむ

緑なすはこべは萌えず

若草の籍くによしなし

しろがねのふすまの岡辺

日に溶けて淡雪流る」

私は高村光太郎のあとけない話が好き

「千恵子は東京に空が無いといふ、

ほんとうの空がみたいといふ。」

私は石川 啄木の詩が好き

「ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふるさとの山は

ありがたきかな」

私は岡本 かの子の詩が好き

「桜ばな いのちいづばいに咲くからに

生命をかけて わが眺めたり」

「雪」  
ゆき

しん しん

しん しんと

雪がふる

田畑に

屋根に

私の庭に

積もる 積もる

音もなく

静かさを 連れてくる

雪は妖精

天のお使い

しん しん

しん しんと

雪がおりる

天から降りてくる

私の頭 肩に

そして 心に

静かさを 運んで

透きとおる

雪は妖精

天のお使い

